

農

学生生活ハンドブック

二〇一二年

# 学生生活ハンドブック

東京農業大学  
2012

この本の内容は、学生ポータルサイトで閲覧することができます。  
学生ポータルサイトについては、13ページをご覧ください。

農 東京農業大学

オホーツクキャンパス / 大学院生物産業学研究科・生物産業学部  
〒099-2493 北海道網走市八坂 196

世田谷キャンパス / 〒156-8502 東京都世田谷区桜丘 1-1-1

厚木キャンパス / 〒243-0034 神奈川県厚木市船子 1737

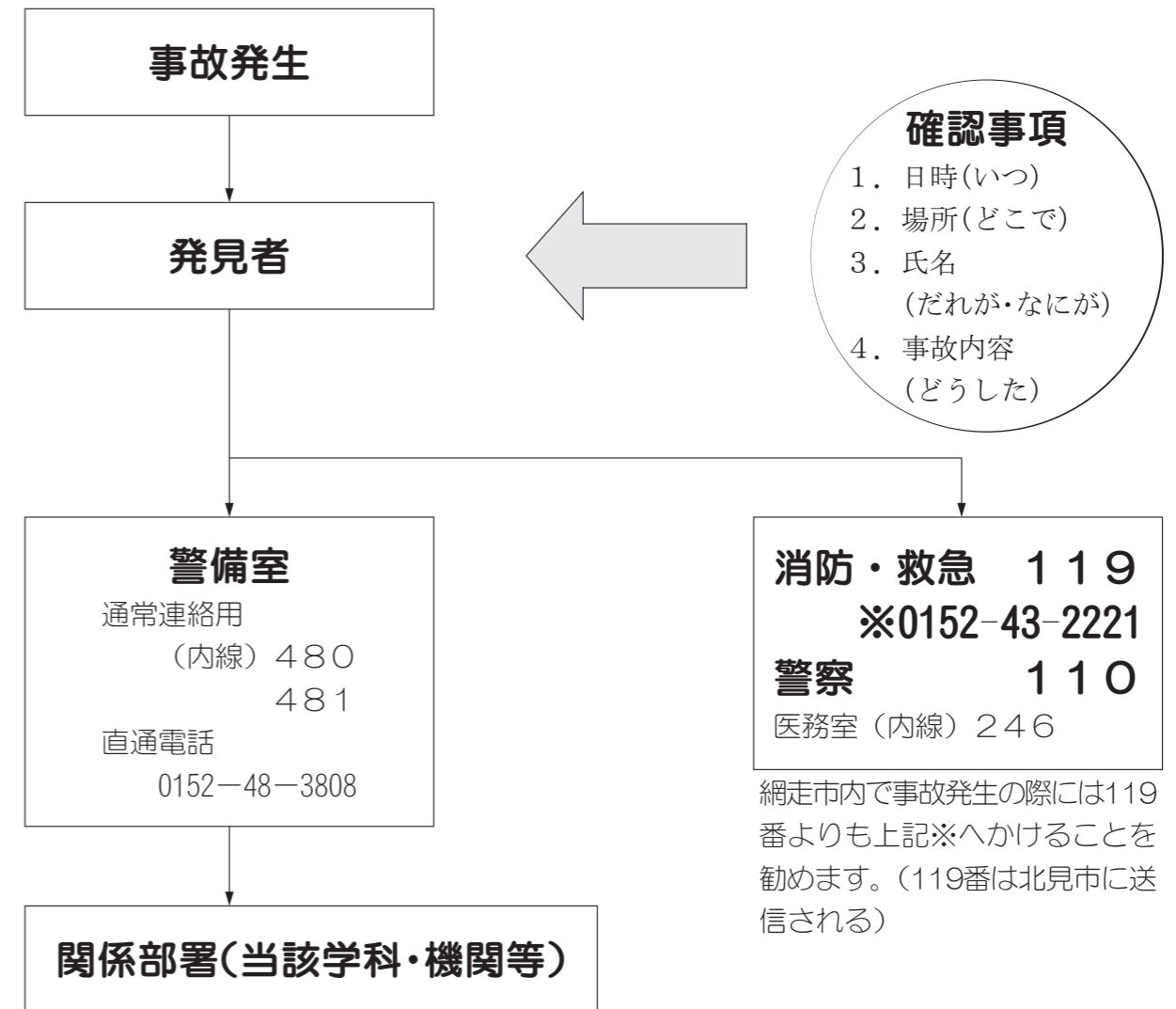
東京農業大学生物産業学部

生物産業学部

## 学生個人情報保護に関する本学の取り組みについて

本学では、学生の皆さんの教育研究及び生活支援に必要な業務を遂行するために個人情報を扱っております。このたびの個人情報保護法施行に際し、個人情報の保護に関する法律や政令、文部科学大臣が定める指針等の基準を遵守しながら、適切な取り扱いの取り組みを行っています。

# 緊急連絡



## 学生生活ハンドブック 2012

編集・発行 東京農業大学 学生サービス課  
生物産業学部  
〒099-2493 北海道網走市八坂196番地  
TEL 0152-48-3813  
URL: <http://www.bioindustry.nodai.ac.jp>  
印刷 株式会社 大成印刷  
〒093-0005 北海道網走市南5条東2丁目  
TEL 0152-43-2033(代)

(東京農大精神)



本学の初代学長横井時敬先生が好んで使われた言葉で、東京農大の精神といわれています。現代流に言えば「物質主義に溺れることなく、心身ともに健全で、いかなる逆境にも挫けない気骨と主体性の持ち主たれ」ということです。

# 目 次

建学の理念 —実学主義の伝統—	4
大学の沿革	5
豊かな教養とコミュニケーション力	8
創造性を育む場所と時期を意識したキャンパスライフ	9
大学組織及び生物産業学部教員	10
平成24年度東京農業大学生物産業学部年間授業計画	12
インターネットを利用した学生サービス	13
Campus information	16

## I 生活編

• Campus Map	18
• 学生生活～まず、覚えてほしいこと	20
掲 示	20
学 生 証	22
定期券購入の仕方	23
事務の窓口業務について	24
• 学生生活～このような時はここへ	25
証明書・学割・各種届出について	25
• 学生生活～守ってほしいこと	28
自動車・二輪車の乗り入れ登録について	28
学生駐車場	30
迷惑駐車防止	31
エコドライブのすすめ	32
家庭ごみ	33
キャンパスマナー	34
喫煙場所	35
• 学生生活～注意してほしいこと	36
悪徳商法	36
クーリング・オフ	38
薬物乱用について・密漁禁止	39
交通事故	40
飲酒・飲酒運転	41
• 福利厚生～奨学金・特待生制度について	42
日本学生支援機構奨学金	42
奨学金Q&A	43
特待生制度について	45
• 福利厚生～遠慮なく利用しよう	46
宿泊施設	46
学生教育研究災害障害補償	47
アルバイト・下宿・アパート	48
• 福利厚生～健康管理	49
医務室・健康相談・こころの健康相談について	49
予防すべき感染症について	50
ハラスメント防止	52
• 課外活動	53
農友会	53
全学応援団	54
同好会	55
スポーツ共済の加入について	56
学生会館	57
• 冬の生活注意辞典	58
• 防災について	59
• こんなときどうするの? Campus Life Q&A	60
• 就職と職能・資格講座について	62
キャリア・エクステンションフロア	63
• 「学部意見」にお答えします	65

## II 学修編

• 履修するということ・学生諸君への注意事項	68
1. 授業科目と単位制	69
2. 授 業	69
3. 履修計画・履修登録	71
4. 試 験	73
5. 成 績	75
6. 進 級	77

7. 卒業・学位	77
8. その他	78
9. 各種資格取得について	79
10. 他大学との単位互換について	81
11. 地域産業経営学科学生の単位互換について	81
12. 配当科目一覧	
(1) 生物生産学科授業科目配当表	82
(2) アクアバイオ学科授業科目配当表	84
(3) 食品香粧学科授業科目配当表	86
(4) 地域産業経営学科授業科目配当表	89
(5) 全学共通科目	92
III オホーツク学術情報センター利用案内	94
案内図	97
IV 国際交流について	99
国際教育プログラム	99
外国人留学生支援	101
V 生物資源開発研究所	104
VI 大学農場案内	105
伊勢原農場	105
富士農場	108
宮古亜熱帯農場	110
網走寒冷地農場	112
VII 食品加工技術センター	114
VIII オホーツク臨海研究センター	115
資料編	116
東京農業大学学則（抜粋）	117
学校法人東京農業大学学費収納処理要領（抜粋）	122
学生生活についての基準	123
特待生細則・生物産業学部特待生細則運用内規	125
東京農業大学奨学生規程	126
東京農業大学外国人留学生奨学生規程	126
学校法人東京農業大学ハラスメント防止等に関する規程	127
東京農業大学学生教育研究災害補償内規・実施要領	129
学生死亡弔慰金内規	131
課外活動における教室使用要領	131
遺失物及び拾得物取り扱い要領	131
東京農業大学海外派遣学生プログラム実施要領	132
東京農業大学海外派遣・受入学生弔意見舞金要領	133
自動車・二輪車乗り入れ登録要領	134
東京農業大学学術情報センター〔オホーツク〕利用規程	135
東京農業大学ネットワーク利用ガイドライン	139
オホーツク学生会館使用要綱	140
校舎配置図	141
学部本部棟（1号館）	142
研究講義棟（2号館）	143
第一食堂棟（3号館）・学術情報センター（4号館）	145
第一研究実験棟（5号館）	146
体育館（6号館）	149
第二食堂棟（7号館）	150
講義実験棟（8号館）	151
食品加工技術センター（9号館）	153
オホーツク学生会館（10号館）	154
第二研究実験棟（11号館）	156
東京農業大学学歌	159
東京農業大学オホーツク・キャンパス讃歌	160
平成24年度東京農業大学生物産業学部カレンダー	161

# 建学の理念

## ——実学主義の伝統——



創設者 榎本武揚子爵

東京農業大学は明治24年3月6日、榎本武揚<sup>えのもとたけあき</sup>によって、徳川育英会を母体にした私立育英農科として設置されました。

育英農の後身「東京農学校」第2回卒業式の式辞として榎本武揚は、次のように述べています。

「我農民特有の能力に加ふるに、学術と実験とを以て、農業に属する各般の改良を図らば、其の国家の富源を増進すべきこと、決して擬を容るべからず。(中略) 諸子其れ本校に於て得たる所の技能を実際に施し、以て父兄の業を拡張し、更に進んで国家富強の基を開かれんこと拙者が諸子に望む所なり。」

この言葉は、農業の発展が近代国家の建設にとって極めて重要であり、それを担う農業後継者である卒業生に送ったものです。当時は官立の農学校の創草期でしたが、官吏養成を主目的としない、わが国はじめての私立の農学校として設立した本学の建学の理想がうかがえます。



初代学長 横井時敬博士

本学の建学の理念を築いたのは、明治30年から昭和2年までの30年間、心血を注ぎ、本学を育成した、わが国近代農業の鼻祖といわれる初代学長横井時敬<sup>よこいときよし</sup>です。

横井時敬は農学の教育研究をとおして農業、農業関連産業及び農村文化・農村社会の発展に寄与する人材の育成を目指し、その教育理念を「実学主義」におきました。横井時敬の「稲のことは稲にきけ、農業のことは農民にきけ」は、今もって本学における研究教育の精神的支柱になっており、観念論を排し実際から学ぶ姿勢をこの言葉に込めています。

そして「人物を畑に還す」と。さらに「農学栄えて農業亡ぶ」という警世の句を残し、教育研究は学問のための学問を排し産業界から遊離しない実学研究でなければならないとしました。

また人格の陶冶を、質実剛健<sup>しつじつごうけん</sup>、独立不羈<sup>どくりつふき</sup>、自彊不息<sup>じきょうやまず</sup>の言葉で表現し、「気骨と主体性」をもった紳士の育成を目指しました。

# 大学の沿革



第一回生卒業記念写真（明治26年）

- 1891(明治24)年 徳川育英会による育英農科として、東京市麴町（現千代田区）飯田河岸に設立。管理長は榎本武揚、ながもちめいとく農長は永持明德。
- 1892(明治25)年 東京市小石川区（現文京区）大塚窪町に移転。育英農分農科となる。
- 1893(明治26)年 私立東京農学校と改称。
- 1897(明治30)年 大日本農会附属私立東京農学校と改称。教頭に横井時敬就任。
- 1898(明治31)年 東京府豊多摩郡渋谷村常磐松（現渋谷区渋谷4丁目）に移転。
- 1901(明治34)年 大日本農会付属私立東京高等農学校と改称。
- 1903(明治36)年 専門学校令による許可を受ける。
- 1905(明治38)年 農商務省から耕地整理講習部設置委託の命令を受ける。
- 1907(明治40)年 校長に横井時敬就任。
- 1911(明治44)年 私立東京農業大学と改称し、初代学長に横井時敬就任。  
大学部（本科、予科）及び高等科設置。
- 1913(大正2)年 大学構内に東京農業大学肥料分析講習部（後に農芸化学講習部と改称）を設置。
- 1924(大正13)年 大学構内に東京高等造園学校を設立。
- 1925(大正14)年 財団法人東京農業大学の認可を受ける。大学令による東京農業大学となり農学部農学科及び予科を設置。  
専門学校令による東京農業大学を東京農業大学専門部と改称し、農学科及び農芸化学科を設置。

- 1927(昭和2)年 第2代学長に吉川祐輝<sup>きっかわすけてる</sup>就任。
- 1937(昭和12)年 専門部に農業拓殖科(後に開拓科と改称)を増設。
- 1938(昭和13)年 農学部<sup>なうがくぶ</sup>に農業経済学科を増設。
- 1939(昭和14)年 第3代学長に佐藤寛次<sup>さとうかんじ</sup>就任。
- 1940(昭和15)年 専門部に農業工学科(後に農業土木学科と改称)を増設。
- 1941(昭和16)年 専門部に農村経済科を増設。
- 1942(昭和17)年 東京高等造園学校を合併し、専門部に造園科(後に緑地土木科、さらに緑地科と改称)を増設。
- 1945(昭和20)年 農学部<sup>なうがくぶ</sup>に農芸化学科及び農業土木学科を増設。  
5月戦災をこうむり校舎、諸設備の大部分を焼失。終戦とともに樺太農場(約192ha)、満洲農場(7,500ha)を失う。
- 1946(昭和21)年 東京都世田谷区(現在地)の旧陸軍機甲整備学校跡に移転。
- 1947(昭和22)年 千葉県茂原市に千葉農学部<sup>ちばのうがくぶ</sup>を開設し、専門部林業科と畜産科を増設。  
専門部開拓科を廃止。
- 1949(昭和24)年 学校教育法による新制大学設置の認可を受け、農学部<sup>なうがくぶ</sup>に農学科・林学科・畜産学科・農業化学科・農業工学科・農業経済学科・緑地学科・協同組合学科(25年廃止)を設置。
- 1950(昭和25)年 東京農業大学短期大学を併設。農業科・醸造科他5科を設置するが後に5科は廃止。
- 1951(昭和26)年 学校法人東京農業大学の寄附行為設置が認可された。
- 1953(昭和28)年 農学部<sup>なうがくぶ</sup>に醸造学科を増設。  
大学院農学研究科修士課程農学専攻・農業経済学専攻を設置。
- 1954(昭和29)年 農業化学科を農芸化学科に改称。
- 1955(昭和30)年 第4代学長に千葉三郎<sup>ちばさぶろう</sup>就任。
- 1956(昭和31)年 農学部<sup>なうがくぶ</sup>に農業拓殖学科を増設。緑地学科を造園学科に改称。  
短期大学に栄養科増設。
- 1957(昭和32)年 大学院農学研究科に修士課程農芸化学専攻を増設。
- 1959(昭和34)年 大学院農学研究科に博士課程農芸化学専攻を増設。  
第5代学長に三浦肆玖楼<sup>みうらしくろう</sup>就任。
- 1961(昭和36)年 第6代学長に内藤敬<sup>ないとうけい</sup>就任。
- 1962(昭和37)年 農学部<sup>なうがくぶ</sup>に栄養学科を増設。  
大学院農学研究科に博士課程農学専攻及び農業経済学専攻を増設。
- 1968(昭和43)年 栄養学科を栄養学専攻と管理栄養士専攻に専攻分離し、昭和40年度入学生に遡って適用した。
- 1971(昭和46)年 第7代学長に平林忠<sup>ひらばやしただし</sup>就任。
- 1975(昭和50)年 第8代学長に鈴木隆雄<sup>すずきたかお</sup>就任。
- 1985(昭和60)年 短期大学長に石丸圀雄<sup>いしまるくにお</sup>就任。
- 1986(昭和61)年 大学院農学研究科に修士課程林学専攻、畜産学専攻、食品栄養学専攻を増設。
- 1987(昭和62)年 第9代学長に松田藤四郎<sup>まつだとうしろう</sup>就任。
- 1989(平成元)年 北海道網走市に生物産業学部(生物生産学科・食品科学科・産業経営学科)を新設。  
短期大学長に松田藤四郎就任。



- 1990(平成2)年 大学院農学研究科林学専攻、畜産学専攻の修士課程を博士前期課程とし博士後期課程を増設。博士後期課程生物環境調節学専攻、修士課程農業工学専攻、醸造学専攻、国際農業開発学専攻、造園学専攻を増設。  
これにより、大学院農学研究科に11専攻となる。  
東京農業大学短期大学を東京農業大学短期大学部と校名変更。
- 1991(平成3)年 農学部農業拓殖学科を農学部国際農業開発学科に改称。  
天皇皇后両陛下ご臨席のもと創立100周年記念式典(於東京プリンスホテル)を挙る。
- 1992(平成4)年 短期大学部農業科を、生物生産技術学科及び環境緑地学科に改組。  
短期大学部醸造科を醸造学科に、短期大学部栄養科を栄養学科に改称。
- 1993(平成5)年 大学院生物産業学研究科修士課程生物産業学専攻を増設。
- 1995(平成7)年 大学院生物産業学研究科生物産業学専攻の修士課程を博士前期課程とし博士後期課程を増設。
- 1998(平成10)年 農学部10学科を、農学部(農学科、畜産学科)、応用生物科学部(バイオサイエンス学科/新設、生物応用化学科/農芸化学科改称、醸造科学科/醸造学科改称、栄養科学科/栄養学科改称)、地域環境科学部(森林総合科学科/林学科改称、生産環境工学科/農業工学科改称、造園科学科/造園学科改称)国際食料情報学部(国際農業開発学科、食料環境経済学科/農業経済学科改称、生物企業情報学科/新設)に改組。  
神奈川県厚木市船子に厚木キャンパス(農学部)新設。  
3キャンパス6学部19学科体制スタート。
- 1999(平成11)年 第10代学長に<sup>しんじいそや</sup>進士五十八就任。  
ISO14001の認証を取得
- 2002(平成14)年 大学院農学研究科に修士課程バイオサイエンス専攻、国際バイオビジネス学専攻を増設。醸造学専攻、食品栄養学専攻、農業工学専攻、造園学専攻、国際農業開発学専攻の修士課程を博士前期課程とし博士後期課程を増設。  
大学院2研究科14専攻体制スタート。
- 2004(平成16)年 大学院農学研究科バイオサイエンス専攻、国際バイオビジネス学専攻の修士課程を博士前期課程とし博士後期課程を増設。
- 2005(平成17)年 国際食料情報学部生物企業情報学科を国際バイオビジネス学科に改称。大学院農学研究科博士後期課程生物環境調節学専攻を環境共生学専攻に改称。  
第11代学長に<sup>おおさわかんじゅ</sup>大澤貫寿就任。
- 2006(平成18年) 農学部バイオセラピー学科、生物産業学部アクアバイオ学科を増設。
- 2010(平成22年) 生物産業学部食品科学科を食品香粧学科に改称。  
大学院農学研究科に修士課程バイオセラピー学専攻を増設。  
大学院生物産業学研究科博士前期課程にアクアバイオ学専攻を増設、既存の生物産業学専攻の博士前期課程を、生物生産学専攻、食品科学専攻、産業経営学専攻の3専攻に改組。
- 2012(平成24年) 大学院農学研究科バイオセラピー学専攻の修士課程を博士前期課程とし博士後期課程を増設。  
生物産業学部産業経営学科を地域産業経営学科に改称。



## 豊かな教養とコミュニケーション力

東京農業大学  
東京農業大学短期大学部

おお さわ かん じゅ  
学 長 大 澤 貫 寿

新入生諸君、入学おめでとう。大学を代表して心から歓迎します。

東京農業大学は、明治24（1891）年、徳川育英会の育英農科として創設されました。創立者は、明治政府で文部、外務大臣などを歴任した子爵榎本武揚先生です。先生は、ヨーロッパ留学で体験した先進的科学技术がわが国の産業発展にとっていかに重要か、そのための教育がいかに大切かを痛感し本学を設立しました。本学の学風は、創立121年の長い歴史の上に培われたものですが、その基礎を築かれたのは、籾の塩水選法を考案し、我が国農学の先駆者横井時敬先生です。その教育方針は「稲のことは稲に聞け」「農業のことは農民に聞け」です。まず知識と経験によって裏打ちされた知を持って現場にある問題を抽出し、解決する姿勢、これが「実学主義」であり、「人物を畑に還す」という建学の精神と共に、本学の教育理念となっています。

また、ビタミンB<sub>1</sub>発見者である鈴木梅太郎先生と東京農業大学とは深い関係にあります。それは、明治34年（1901年）に遡ります。先生は大日本農会付属私立東京高等農学校（本学前身）で、科外講師として肥料学や植物栄養学を担当されています。その後、明治42年に肥料分析講習所を横井学長の支援を得て、渋谷区常磐松の本学構内に移転、施設を本学に寄付、同時に肥料講習所の所長に就任されています。これが農芸化学科の前身となります。

鈴木先生の東京農業大学開講15周年記念誌農友特別号〈大正3年〉への寄稿文には、農藝化学の変遷と題し、「来るべき15年間には私立の農藝化学、即ち人民の農藝化学を建設し、化学の知識を応用して、事業を経営する人民が澤山に輩出せんことを希望するのである。これまでは百姓に教える人、勤める人ばかりであった。今後は自ら人民となって活動しなければならぬ。今までは学問に使われる人ばかりであった。今後は學問を充分に振りまわし得る人民が多くならなければ到底富國の目的は達せられないのである。この如き見地から余は我農業大学が率先し、私学の農藝化学を即ち人民の農藝化学を建設普及する様に尽力せんことを望むものである。」と本学に対する希望と期待が述べられています。明治時代に国民病と言われた脚気がビタミンB<sub>1</sub>の欠乏であることを突き止めたことは、まさに実学を実践した科学者であり、横井精神と合致します。本学のキーワード「健康」の拠り所でもあります。

本学の特色ある教育は、実験、演習を通して、教員と共に課題・研究に取り組み、コミュニケーションのはかれる場、研究室にあります。また、最先端の研究を支え、環境にも配慮した施設・設備を機能的に配備しています。皆さんは、東京農大で勉強に研究に、クラブやボランティア活動に新世紀の担い手にふさわしい国際人をめざし、充実したキャンパスライフを送って下さい。

この『学生生活ハンドブック』は、①キャンパス内外で学生として知っておくべきこと、②学習を進めていくうえで知っておくべきこと、③『学則』をはじめ、学生生活の基本ルール等が掲載されています。すべて入学から卒業までの重要事項ですから、常時手元において十分活用して下さい。合わせて「東京農大学生ポータルシステム」を活用し、いきいきとチャレンジ精神旺盛な大学生として活動して下さい。



## 創造性を育む場所と時期を 意識したキャンパスライフ

学部長 横濱道成

新入学生の皆さん、入学おめでとう！ 生物産業学部を代表して心より歓迎します。新しい生活を迎えるに当たって、皆さんには期待と不安が交錯していることと思います。

新入学生の皆さんは、全国各地から当地（オホーツクキャンパス）に集まって来ました。皆さんは入学の動機や学びたい事はそれぞれ異なりますが、入学を機にして、東京農業大学オホーツクキャンパスで学ぶ仲間です。これからのキャンパスライフでは、文化や習慣など多様な環境の中で育って来た皆さんがお互いを刺激し、学科や学年を越えて、真の友人と出会える機会になると思います。

本キャンパスは北緯43度に位置し、わが国の北端沿岸域（オホーツク圏）にある大学です。北にはオホーツク海（冬季には結氷する）が広がり、オホーツク海に注ぐ大河（アムール川）を通してロシア、中国、モンゴルとつながっています。背地には多様な動植物が息する知床半島（世界自然遺産）や阿寒の森があります。またオホーツク海や多数の湖沼からは豊富な水産物が、広大な圃場からは高品質の農産物が生産され、日本の食料自給を支える生産基地となっています。しかし一方で、オホーツク圏の自然にも人間活動との軋轢が発生しており、この問題には地域住民と連携した科学的解決が急がれています。皆さんにとって、この環境がすべて学びの場所です。「人生には創造性が育まれる時期と場所がある」と言われます。本キャンパスで学ぶ4年間は皆さんにとって、創造性を育む時期に当り、キャンパスやこの地はその場所となります。

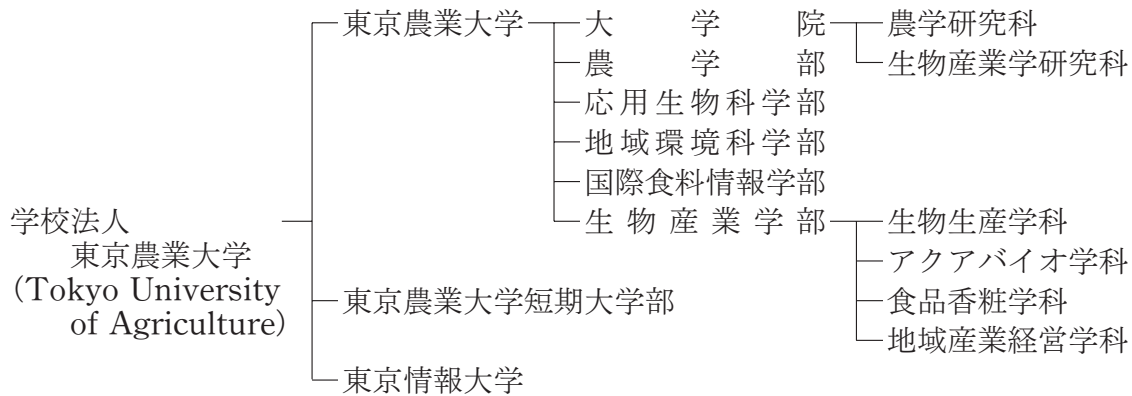
大学では、これまでの学校生活とは違って、勉強にしても課外活動にしても皆さんが主体性をもって自主的に取り組むことが求められます。学習や体験を通して、本質の捉え方や考え方を学び、分析力や判断力、創造力などを養ってください。そのための手引き書が「学生生活ハンドブック」です。

「生活編」では、学生としての基本ルールを中心に、福利厚生 の諸制度、課外活動のガイドなど学生生活を送る上で必要なことが記載されています。「学修編」では、配当科目、履修科目の組み立て（履修計画）、試験、各種の資格取得、卒業要件など単位取得に必要な事項が記載されています。さらに、学術情報センター（図書館とコンピューター教室）の利用方法、留学や短期海外実習、就職活動など卒業後の進路についての情報も載っています。有意義な学生生活を送るためには、この「学生生活ハンドブック」は必読品となります。

最後に、皆さんには現在の世界情勢を捉え、学ぶ目的を忘却せず、将来を確り見据え、楽しくて意義あるキャンパスライフを過ごして頂きたいと思います。

# 大学組織及び生物産業学部教員

## 1 東京農業大学組織



## 2 生物産業学部教員組織 (Faculty of Bioindustry)

学 長 大澤 貫寿  
 学 部 長 横濱 道成  
 学生部長 佐藤 広頭

### ◇生物生産学科 (Dept.of Bioproduction)

学科長	吉田 穂積	主 事	中村 隆俊		
植物生産分野	作物生産管理学研究室	教 授	吉田 穂積		
		准教授	伊藤 博武		
		准教授	中丸 康夫		
		助 教	笠島 真也		
	植物バイオテク研究室	教 授	小栗 秀		
		助 教	坂本 光		
動物生産分野	動物生産管理学研究室	教 授	増子 孝義		
		准教授	相馬 幸作		
	動物バイオテク研究室	教 授	橋詰 良一	亀山 祐一	
		助 教	下井 岳		
生物資源保全分野	植物資源保全学研究室	教 授	鈴木 悌司		
		講 師	中村 隆俊		
	動物資源管理学研究室	教 授	横濱 道成		
		講 師	白木 彩子		
		助 教	和田 健太		

### ◇アクアバイオ学科 (Dept.of Aqua Bioscience and Industry)

学科長	塩本 明弘	主 事	西野 康人		
水産資源分野	水産増殖学研究室	教 授	水野 眞		
		准教授	千葉 晋		
		講 師	園田 武		
	水産資源管理学研究室	准教授	小林 万里	金岩 稔	
アクアバイオテク分野	アクアゲノムサイエンス研究室	教 授	白井 滋		
		准教授	松原 創		
	水圏生物化学研究室	教 授	渡邊 研一		
		講 師	山家 秀信		

オホーツク水圏環境分野 水圏生態学研究室 教授 谷口 旭  
 准教授 西野 康人  
 助 教 中川 至純  
 水圏環境学研究室 教授 塩本 明弘  
 講 師 朝隈 康司

◇食品香粧学科 (Dept.of Food and Cosmetic Science)

学科長 戸枝 一喜 主 事 妙田 貴生  
 開 発 加 工 分 野 資 源 利 用 学 研 究 室 教 授 佐藤 広頭  
 助 教 中澤 洋三  
 食 品 製 造 科 学 研 究 室 教 授 永島 俊夫  
 准教授 山崎 雅夫  
 食 品 安 全 分 野 応 用 微 生 物 学 研 究 室 教 授 中川 純一  
 助 教 藤村 朱喜  
 品 質 制 御 学 研 究 室 准教授 宮地 竜郎 村松 良樹  
 医 食 香 粧 分 野 生 物 化 学 研 究 室 教 授 渡部 俊弘 丹羽 光一  
 准教授 相根 義昌  
 食 品 香 粧 機 能 学 研 究 室 教 授 西澤 信 戸枝 一喜  
 藤森 嶺  
 助 教 妙田 貴生

◇地域産業経営学科 (Dept.of Business Science and Regional Development)

学科長 美土路知之 主 事 野村比加留  
 地 域 産 業 経 営 分 野 地 域 産 業 資 源 研 究 室 教 授 長澤 真史  
 准教授 笹木 潤  
 資 源 環 境 経 営 研 究 室 教 授 黒瀧 秀久 小松 善雄  
 木村 俊昭  
 地 域 産 業 連 携 分 野 地 域 産 業 戦 略 研 究 室 教 授 田中 俊次 美土路知之  
 講 師 阪井 健男  
 産 業 連 携 戦 略 研 究 室 教 授 竹下 幸一  
 講 師 坂田 圭子  
 助 教 上田 智久  
 戦 略 的 マーケティング研究室 教 授 菊地 哲夫  
 講 師 野村比加留

◇生物産業学部共通

教 養 分 野 外 国 語 第 一 研 究 室 准教授 西田 晴美  
 外 国 語 第 二 研 究 室 准教授 君島 利治  
 外 国 語 第 三 研 究 室 教 授 若松美智子  
 講 師 范 為仁  
 健 康 科 学 研 究 室 准教授 桜井智野風  
 教 育 学 研 究 室 教 授 入宇田尚樹 日下 哉  
 助 教 後藤広太郎  
 博 物 館 情 報 学 研 究 室 准教授 宇仁 義和

◇網走寒冷地農場

教 育 研 究 部 准教授 伊藤 博武

## 平成24年度(2012年度)東京農業大学 生物産業学部 年間授業計画

月	日(曜日)	前学期(平成24年4月～平成24年9月)
4	2日(月) 2日(月)～5日(木) 3日(火)～7日(土) 4日(水) 5日(木) 6日(金)・7日(土) 9日(月)	編入学生ガイダンス(履修説明会) 在学生健康診断・学科ガイダンス 新入生・編入学生ガイダンス 入学式 新入生・編入学生健康診断 新入生・編入学生学外オリエンテーション 前学期授業開始
5	1日(火) 2日(水) 18日(金)	振り替え休講(5月18日大学の記念日分) 振り替え休講(7月16日海の日分) 大学の記念日(授業実施)
6	29日(金)	卒業論文題目届提出締切日【卒業年次生】
7	14日(土)～15日(日) 16日(月) 30日(月)	教育後援会地方懇談会 海の日(授業実施) 前学期定期試験
8	2日(木) 3日(金)	夏季休業 夏季集中授業
9	14日(金)	
		<b>後学期(平成24年9月後半～平成25年3月)</b>
9	24日(月)	後学期授業開始
10	5日(金) 6日(土)～8日(月) 9日(火)	収穫祭のため午後準備 収穫祭 収穫祭の後片づけ
11	17日(土) 17日(土)・18日(日)	東京農大オホーツク教育フォーラム 推薦入試
12	25日(火)	冬季休業
1	4日(金) 7日(月) 23日(水)・24日(木) 29日(火) 31日(木)	
2	1日(金) 2日(土)	後学期授業再開 授業補講日 後学期定期試験 卒業論文提出締切日【卒業年次生】
3	6日(水) 8日(金) 17日(日)	後学期定期試験予備日 学校法人の創立記念日 卒業確定者および進級確定者の発表 卒業式

注：上記スケジュールはいずれも予定であり、変更することがあります。

変更が生じた場合は、随時、学生ポータル等にて周知しますので確認してください。

# 〈インターネットを利用した学生サービス〉

## （学生ポータルサイトとは？）

学生に対する告示、連絡、呼び出し、休講情報など重要な連絡は、すべて学生ポータルサイト及び掲示板で行います。掲示を見落とすと学生生活に支障が生じます。登下校の際には必ず学生ポータルサイト又は各課等の掲示を確認するようにして下さい。

## 1 学生ポータルサイト

学生ポータルサイトはインターネットを利用したサービスで、自宅や学内のコンピュータ自習室、インターネットラウンジ等を利用し、アクセスすることができます。

### (1) 学生ポータルサイトでできること

The screenshot shows the 'TOKYO NODAI Information Portal' interface. The top navigation bar includes the university name, logo, and a login field for 'PTU503'. The main content area is divided into several sections:

- 個人向け情報** (Personal Information): Includes links for message reception, password change, and profile updates.
- メッセージ受信一覧ポータル** (Message Reception List): A table showing received messages with columns for title, category, sender, and date.
- 個人週間スケジュール** (Personal Weekly Schedule): A calendar view for February 2009, showing class times for '20003氏名'.

タイトル	種別	送信者	掲載日
春季休暇中の校区在室日のお知らせ	お知らせ	[学生生活支援課健康推進センター]	2月2日(月) 17時27分
夏季休暇中の校区在室日のお知らせ	お知らせ	[学生生活支援課健康推進センター]	1月28日(水) 16時50分
公休日等に関するお知らせ	お知らせ	[キャリアセンター事務局]	1月19日(月) 14時36分

2009年 2月	13日(金)	14日(土)	15日(日)	16日(月)	17日(火)	18日(水)	19日(木)
20003氏名		9:00-18:00 図書館	9:00-18:00 図書館				

授業に関する情報や登録（Webシラバス、履修登録、成績確認、授業評価、住所登録変更等）ができます。個人的な呼び出しや大学からの連絡を閲覧できると同時に、携帯電話のメールアドレスを登録すれば自動受信も可能です。

## (2) 利用方法

まず、これらのサービスを利用するためには本学のID・パスワードを取得し、ネットワークガイダンスを受講する必要があります。学内のパソコンを利用するときはオホーツク学術情報センター利用案内（P94）を参照して下さい。

## (3) 利用者IDカード

入学すると、利用者IDカードが配布されます。利用者IDは、東京農大のネットワークサービスを利用するときに必要な利用者を認識する符号で、8桁の学籍番号が利用者IDとなります。利用者IDは次のような場合に必要で、同時にパスワードも必要になります。

- 学生ポータルサイトを利用する
- 大学の電子メールを使用する
- 農大アグリネットを利用する
- 授業でコンピュータ演習室・実習室のパソコンを使用する
- 学術情報センター、コンピュータ自習室、3キャンパスラボ（世田谷キャンパス1号館1F）などのパソコンを使用する
- インターネットラウンジを利用する

## (4) パスワードについて

上記のサービスを利用するときに、利用者本人であるかどうかを確認するため、パスワードの入力が求められます。パスワードは利用者IDカードに印字されています。パスワードは銀行のキャッシュカードの暗証番号と同様にとても大切なものです。絶対に他の人に見せないで下さい。

パスワードがわからなくなった場合は利用者IDカードの再発行となります(有料)ので注意して下さい。

利用者IDカードの再発行は約1週間かかりますので、その間は上記のサービスを利用することができません。

## (5) 利用者IDの有効期限と情報倫理教育受講について

利用者IDは、配布当日から卒業まで使用することができます。しかし、この利用者IDを使用するにあたり、皆さんが大学の様々なサービスを正しく使うことができるように、「情報倫理教育（ネットワークガイダンス）」を受講することが義務付けられています。この情報倫理教育を受講しない場合は5月31日で利用者IDの使用を停止します。

情報倫理教育（ネットワークガイダンス）は、必修科目である「フレッシュマンセミナー」の中で実施しますので、必ず出席して下さい。万が一欠席した場合は、学生サービス課に相談して下さい。



## (6) ネットワーク利用上の注意

ネットワークを利用するときは、次のことに注意して下さい（東京農業大学ネットワーク利用ガイドライン要約）。

- ① ネットワークを利用したすべての行為に全責任を負うことになるので、社会の一員としての自覚に基づいて利用すること。
- ② 複数のIDを持つことはできない。
- ③ 他の利用者に自分のIDとパスワードを教え、電子メールや学生ポータル等を使わせないこと。また、他の利用者のパスワードの解読をしないこと。
- ④ 他の利用者のファイルやデータを勝手に削除したり、コピーしたりしないこと。
- ⑤ 大量のデータを送信したりすることで、他の利用者の利用を妨げないこと。
- ⑥ 大学のネットワークは教育・研究を目的としているので、営利目的、政治活動、布教活動などで使用することはできない。
- ⑦ コンピュータシステムを壊したり、故障の原因となるような行為をしないこと。
- ⑧ 第三者の著作物を利用するときは、著作権法の規定に従い、勝手にコピーをしないこと。
- ⑨ 他の利用者の電子メールを勝手に読み、削除・コピーをしたり、偽造したりしないこと。
- ⑩ いやがらせや公序良俗に反する内容、不確かな内容の情報をWebページを使って流したり、迷惑となる電子メールを送ったりしないこと。
- ⑪ コンピュータウイルスを持ち込まないこと。

## (7) アクセスの方法

本学のホームページにアクセス (<http://www.nodai.ac.jp>) し、トップページにある「在学生・教職員の皆さんへ」をクリックする。認証画面に利用者ID・パスワードを入力するとTOKYO NODAI Information Portalが開きます。あとは自分の必要とする機能を使って下さい。



## (8) 注意事項

- ① 学外からアクセスする場合の通信費は利用者負担です。
- ② システムメンテナンス等でサービスを休止することがあります。

## (9) 問い合わせ先

学生ポータルサイト運用グループ e-mail [portal-t@nodai.ac.jp](mailto:portal-t@nodai.ac.jp)

## Campus information

- オホーツクキャンパス

〒099-2493 北海道網走市八坂196  
学生サービス課 0152-48-3813  
総務課 0152-48-3811  
入試課 0152-48-3814  
キャリア・エクステンション課 0152-48-3816  
学術情報センター 0152-48-3818  
医務室 0152-48-3817

- 世田谷キャンパス

〒156-8502 東京都世田谷区桜丘1-1-1

- 厚木キャンパス

〒243-0034 神奈川県厚木市船子1737

- 網走寒冷地農場

〒099-3501 北海道網走市音根内59-8

- オホーツク臨海研究センター

〒093-0131 北海道網走市能取港町1-1-2

- 伊勢原農場棚沢水田

〒243-0206 神奈川県厚木市下川入1416-1

- 伊勢原農場二宮柑橘園

〒259-0123 神奈川県中郡二宮町二宮山王台2222

- 伊勢原農場

〒259-1103 神奈川県伊勢原市三ノ宮字前畑1499-1

- 富士農場

〒418-0109 静岡県富士宮市麓422

- 奥多摩演習林

〒198-0212 東京都西多摩郡奥多摩町氷川2137

- 宮古亜熱帯農場

〒906-0103 沖縄県宮古島市城辺字福里72-2